

■ 堺市と関西大学との地域連携事業による展示イベントを開催 ■

アルフォンス・ミュシャ没後 80 年企画「生き続けるミュシャ」

【日 時】〈展示〉10月26日(土)、27日(日) 11:00～17:00 〈講演会〉10月27日(日) 14:00～15:00

【場 所】グランフロント大阪 北館2階 ザ・ラボ内 アクティブスタジオ

関西大学総合情報学部 AMD プロジェクトは、堺市との連携事業の一環として堺 アルフォンス・ミュシャ館と連携し、19世紀末を彩ったアール・ヌーヴォーの代表的画家であるアルフォンス・ミュシャの作品をデジタル展示で紹介するイベントを、10月26日(土)・27日(日)に開催します。

本件の
ポイント

- ・ミュシャのポスター作品をモチーフとして光と影が織りなす動きのある映像で作品の魅力を紹介
- ・ミュシャがパリで活躍した19世紀末のポスター作品を堺 ミュシャ館の学芸員が講演会で解説
- ・ミュシャの大型連作絵画《スラヴ叙事詩》の全体像と各作品のスケール感をデジタル展示で紹介

アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)は、大女優サラ・ベルナールに見いだされたことをきっかけに、一躍人気のデザイナーとして才能を豊かに開花させました。後半期には祖国チェコへの貢献を実現するために《スラヴ叙事詩》ほか祖国のための作品を数多く制作しました。

本イベントでは、時代を越えて多くの人々を魅了し続けるミュシャのポスター作品をモチーフとしたモーショングラフィックスや、大型連作絵画《スラヴ叙事詩》のスケール感を体験できるVRコンテンツなどを展示します。学芸員による講演会では、堺市が世界有数のミュシャ・コレクションを形成するに至った経緯とミュシャの生涯をたどりつつ、ミュシャがパリで描いた19世紀末のポスター作品について解説します。

つきましては、ご多忙の折恐縮ですが、周知・取材のご検討をよろしくお願い申し上げます。

<展示イベント「生き続けるミュシャ」概要>

【開催日時】 10月26日(土)、27日(日) 両日とも11:00～17:00

【場 所】 グランフロント大阪 北館2階 ザ・ラボ内 アクティブスタジオ
JR大阪駅より徒歩3分(アクセス <http://kc-i.jp/access/>)

【展示概要】 ミュシャ作品をプロジェクションアートおよびヴァーチャルミュージアムなど、デジタル展示で紹介(次頁に参考画像を掲載)

【対 象】 どなたでも可 【入館料】 無 料

【主 催】 関西大学総合情報学部 AMD プロジェクト

【共 催】 堺 アルフォンス・ミュシャ館 【協 力】 VisLab OSAKA

【関連イベント】

○講演会「ミュシャと世紀末のポスター」: 川口 裕加子氏 (堺 アルフォンス・ミュシャ館学芸員)

<日 時> 10月27日(日) 14:00～15:00 <場 所> 同会場内

<備 考> 申込不要・先着順(30名程度)

※取材をご希望の方は、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当: 寺崎、浦田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

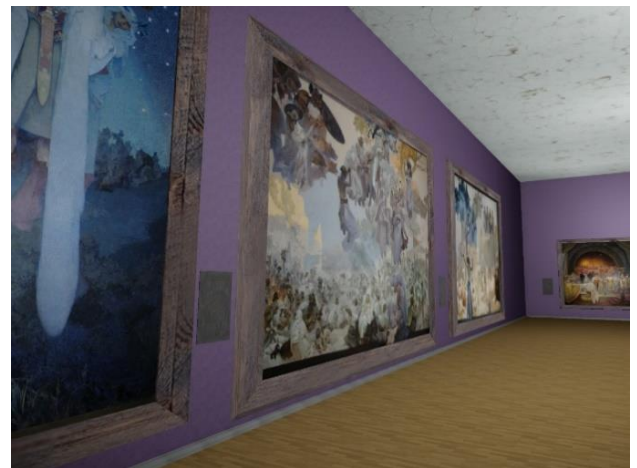
■ アルフォンス・ミュシャ没後 80 年企画展示「生き続けるミュシャ」

【展示コンテンツ】

- ・ミュシャ・プロジェクションアートでは、ミュシャのポスター作品をモチーフとしたモーショングラフィックスを約400インチ（9m×9m）の大スクリーンに投影します。動きのある光と影で再現される映像を通してミュシャ作品の魅力をご覧いただくことができます。
- ・《スラヴ叙事詩》バーチャルミュージアムでは、ヘッドマウントディスプレイを装着して仮想美術館内を回遊しながら、大型絵画（最大6m×8m）《スラヴ叙事詩》のスケール感を鑑賞いただくことができます。



ミュシャ・プロジェクションアート
（ミュシャのポスター作品をモチーフにした映像）



バーチャルミュージアム
（連作《スラヴ叙事詩》のスケール感を体験）

- ・《スラヴ叙事詩》のインフォグラフィックスでは、古代の繁栄から苦難の時代を経て自由と独立を獲得するまでのスラヴ民族の歴史を描いた20連作の全体像を視覚化しています。上記《スラヴ叙事詩》バーチャルミュージアムと合わせて鑑賞いただくことで、ミュシャが抱き続けた祖国への想いを窺い知ることができます。

Alphonse Mucha The Slav Epic

アルフォンス・ミュシャ 《スラヴ叙事詩》

スラヴ叙事詩とは

アルフォンス・ミュシャが 51-66 歳までの 16 年（1910-1926 年）を費やして、スラヴ民族の歴史を描いた 20 作品からなる大型絵画の連作。ミュシャはこの連作をプラハ市に寄贈し、現在はプラハ市立美術館に所蔵されている。

2017 年に東京の国立新美術館で開催された「ミュシャ展」では、チェコ国外で初めて全 20 作品が公開され多数の来場者を集めた。

20 作品のあらすじ

作品①～⑥にはスラヴ民族が他民族の脅威に晒されながらも発展を遂げた歴史が描かれている。⑦～⑭は、15 世紀のフスを中心とした改革派とそれを異端とするローマ教会との争いの後、興亡された歴史が主な題材となっている。

こうした苦難に打ち勝ち、自由と独立を獲得した場面が⑮～⑳に描かれている。最終作品⑳では連作全体を振り返りつつ、スラヴ民族とその歴史を讃えている。

⑳ スラヴ民族の賛歌

スラヴ民族の歴史 ①～⑳が 4 つの時代（青・赤・黒・黄色）に分けて描き込まれている。

古代のスラヴ民族（青）

中世時代（赤）

かつての歌（黒）

独立の喜び（黄）

スラヴ民族の過去・現在・未来

<p>1 2 3 4 5 6</p>  <p>3 世紀 9 世紀 13 世紀</p>	<p>7 8 9 10 11 12 13 14 15 16</p>  <p>15 世紀 16 世紀 17 世紀</p>	<p>17 18 19</p>  <p>19 世紀</p>	<p>20</p>  <p>20 世紀</p>
<h4>I 古代の繁栄と苦難</h4> <p>① 原故郷のスラヴ民族</p>  <p>610x810cm</p> <p>他民族の襲撃を受け、スラヴ民族の少女が草むらに身を隠している。</p>	<h4>II 中世のフス戦争</h4> <p>⑨ 礼拝堂で説教するヤン・フス師</p>  <p>610x810cm</p> <p>ヤン・フスは権威した教会を批判し、後に宗教裁判にかけられ火刑に処された。</p>	<h4>III 弾圧と流浪</h4> <p>⑯ ナールデンでの最後の日々</p>  <p>415x625cm</p> <p>フス派の指導者はローマ教会から国外追放され、諸国遍歴の末に異国で力尽きた。</p>	<h4>IV 支配からの解放</h4> <p>⑱ スラヴ菩提樹の下での誓い</p>  <p>380x580cm</p> <p>改革派の若者がオーストリアからの独立を訴えて集まり、民族復興と樹齢を誓う。</p>

《スラヴ叙事詩》20 作品の全体像とあらすじを視覚的に伝えるインフォグラフィックス

■ 参考情報

◆ 関西大学総合情報学部 AMD (Art×Media×Design) プロジェクト

関西大学総合情報学部において、メディアアート、情報可視化技術、ヒューマンインタフェース、情報デザイン等を専門的に研究する教員有志と各研究室学生による取り組み。映像コンテンツ・メディアアート作品展示を通して地域の魅力発信に寄与することを目指す。これまでに、堺市との地域連携事業の一環として、江戸初期の古民家（堺市立町家歴史館 山口家住宅）において地域の歴史・文化をテーマとした企画展（2015年3月、2016年3月）を開催。また、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議、大阪府立近つ飛鳥博物館、堺市博物館と連携し、百舌鳥・古市古墳群の魅力発信の展示イベント（2016年8月、2017年7月、2018年1月）を開催してきた。

◆ 堺 アルフォンス・ミュシャ館

堺市は、株式会社ドイの創業者 故土居君雄氏（1926-1990）が収集した約500点にのぼるアルフォンス・ミュシャの作品を所蔵。土居氏はミュシャの実息ジリ・ミュシャ（イジー・ムハ）氏との公私にわたる親交によって、ミュシャの祖国（現チェコ共和国）では観ることができない大型の油彩画や下絵など、貴重な作品を加えた厚みあるコレクション形成に尽力し、1989年にチェコスロヴァキア文化功労最高勲章を授与された。氏の没後、コレクションは堺市に寄贈され、1994年よりポルタス堺アルフォンス・ミュシャ・ギャラリーにて、2000年より堺市立文化館アルフォンス・ミュシャ館にて展示公開されている。〔HP: [https:// muchasakai-bunshin.com/](https://muchasakai-bunshin.com/) 〕

◆ アルフォンス・ミュシャの連作絵画《スラヴ叙事詩》

アルフォンス・ミュシャが51～66歳までの約16年（1910～1926年）を費やして、スラヴ民族の歴史を描いた20作品からなる大型絵画の連作。ミュシャはこの連作をプラハ市に寄贈し、現在はプラハ市立美術館に所蔵されている。2017年に東京六本木の国立新美術館で開催された「ミュシャ展」では、チェコ国外で初めて全20作品が公開され65万人余りの来場者を集めた（同年の国内美術展の 入場者数第1位）。国立新美術館での「ミュシャ展」には、展示作品全80点のうち38点が堺アルフォンス・ミュシャ館のコレクションから貸し出され、展覧会の成功に堺市が大きく貢献した。

以 上